

日本における「朝鮮語」の名称

金 泰 虎

問題の所在

日本では、大韓民国（以下では韓国と記す）の韓国語と朝鮮民主主義人民共和国の朝鮮語を包括する意味で「朝鮮語」という名称が一般的に使われてきている（本稿では、朝鮮語と「朝鮮語」とを上の意味で厳密に区分して使用する）。しかし最近、「朝鮮語」に加えてハングル語・コリア語・ウリマル（我々の言葉）・「韓国語・朝鮮語」・韓国語など、その名称が多岐に渡っている⁽¹⁾。この名称の多様化は言語学的観点からみて、韓国語と朝鮮語がかなり違う方向へ進んでいることを反映したものなのか、あるいは韓国と朝鮮民主主義人民共和国の対立、両者をめぐる諸事情の変化によるものなのかは今はさておくとして、従来の韓国語と朝鮮語を包括する意味の「朝鮮語」の名称に対する再検討を促す契機になる現象であろう。つまり、日本での「朝鮮語」という名称が、もはや適切ではなくなってきたとの現れではなかろうか。

日本において「朝鮮語」という名称が定着してきた背景には、1945年に日本の植民地支配から解放されて後、事実上の分断状態を経て、1948年に二つの分断国家、つまり南の韓国と北の朝鮮民主主義人民共和国が成立したという歴史があった。一般的に、一つの国家が国名を変えた場合、言語名にはその国家名称を付ける傾向がある。しかし、韓国と朝鮮民主主義人民共和国とに分断されて、国名が異なった上、さらにイデオロギーの対立が激化したことも加わり、未だに言語名称の統一は見られない。

南北分断以前には、韓国語も朝鮮語も同じ言語規範に基づいて言語を駆使してきたが、1945年以降、現在に至るまで相互が言語に手を加えて新たな言語政策のもと独自の言語規範を施行することにより異質性が増大してきたのである。とりわけ、朝鮮民主主義人民共和国は社会主義建設のため、意図的かつ人為的に言語の改正を行ったのである。南北でそれぞれ異なる言語規定の改正を行ってきたことが、韓国語と朝鮮語の相違点を作り出し、異質性を深めたと言えよう。

日本では韓国語と朝鮮語の特徴や名称の現状把握に基づく研究や適切な名称の提案はほとんど行われていないまま⁽²⁾、状況を克服しようと模索する中でのことと思われるが、言語名称に関してはハングル語・コリア語・ウリマル・「韓国語・朝鮮語」・韓国語といった「名称の多様性」の拡大が見られる。

ところで日本では、「朝鮮語」という名称を使うのが一般的傾向であり、今も根強いもの

がある。しかし、この「朝鮮語」は、朝鮮語と名称が一致している問題がある。この場合、「朝鮮語」は「広義の朝鮮語」、つまり韓国語と朝鮮語を包括し、朝鮮語は「狭義の朝鮮語」として朝鮮民主主義人民共和国で使われる言葉を意味することを明確に示すことができれば、差し支えはない。

しかし、現実的にこのような表現は難しい。NHK講座の開設に当たって、名称をめぐる対立により「ハングル講座」にしたのが、その端的な証左になろう^③。取りも直さず、この対立があるからこそ、韓国語と朝鮮語の相違点や日本における「朝鮮語」学習用テキストの内容を踏まえて、「朝鮮語」の学習者に正確な言語名称の提示が必要であろう。

本稿では、1945年以降、韓国語と朝鮮語がいかに改正され、いかなる相違点をもっているのか、また日本で出版された大学の「朝鮮語」学習用テキストとしてよく使われている書物の内容や言語名称をめぐる日・韓・朝の意図、そして「朝鮮語」の名称について日本の大学生を対象にしたアンケート調査を分析した上、日本においていかなる名称が相応しいかを提案したい。この試みは「朝鮮語」学習者に、より適切な言語名称を提示するとともに、研究や教育での正確な概念の定着に繋がるものと期待される。

第1章 韓国語と朝鮮語

本章では、現在の韓国語と朝鮮語とでは、それぞれの言語規定の改定によっていかなる相違点が生じているのか。1945年から今まで、韓国と朝鮮民主主義人民共和国における言語規定の改正過程を踏まえて、韓国語と朝鮮語の違いを提示することにする。

(1) 韓国語と朝鮮語の規定改正

韓国と朝鮮民主主義人民共和国に分断する以前の1933年、朝鮮語学会が決めた「ハングル正書法統一案 (한글 맞춤법 統一案)」のもと言語生活を行ってきた。1936年には「査定した朝鮮語標準語集 (사정한 朝鮮語 표준말 모음)」が制定されて標準語の基礎が築かれ、引き続き1940年には「外来語表記法統一案」が施行された。

ところが1945年、日本の植民地支配からの解放と同時に、事実上、韓国と朝鮮民主主義人民共和国に分断され、今日に至るまで言語の名称も韓国語と朝鮮語に分かれるようになった。次の(表1)では、分断以降、韓国語と朝鮮語がそれぞれいかなる言語規定の改正を行ったのか、その一連の過程を取り上げることにする。

(表1) 韓国と朝鮮民主主義人民共和国の言語規定

施行年度	韓 国 語	朝 鮮 語
1946年	「ハングル正書法統一案 (한글 맞춤법 統一案)」改正	「1946年9月8日、改定したハングル正書 法統一案 (1946年9月8日 改定한 한글 맞춤법 統一案)」
1948年		「朝鮮語 新 綴字法」
1950年		「朝鮮語 新 綴字法」一部改定
1954年		「朝鮮語 綴字法」
1956年		「朝鮮語 外来語 表記法」
1959年	「ローマ字のハングル表記法 (로마자의 한글화 表記法)」	
1966年		「朝鮮語規範集 (조선말 規範集)」 「文化語 制定」
1969年		「外国語の書き方 (외국말 적기법)」
1977年		「醇化した言葉集 (다듬은 말 묶음)」
1982年		「外国語の書き方 (외국말 적기법)」修正 増補
1986年	「外来語 表記法」	「醇化した言葉 (다듬은 말)」
1988年		「朝鮮語規範集 (조선말 規範集)」修正補 充
1989年	「ハングル正書法 (한글 맞춤법)」 「標準語 規定」	

そもそも同じ言語規定のもとにあった韓国語と朝鮮語は、(表1)で示したように相互の独自の言語規範のもと異なる道を歩みだした。ただ、分断直後の1946年だけは韓国と朝鮮民主主義人民共和国が言語規定の改正に当たって、同じテーブルについた。それはそれぞれ「ハングル正書法統一案」改正や「1946年9月8日、改定したハングル正書法統一案」と名付けている。その後は互いに独自の言語政策に取り組み、特に朝鮮民主主義人民共和国は、「言語を主体性がもてるように発展させて、人民の言語生活を革命的に改善して、言語を革命と建設のための武器、自主性を実現するための闘争の武器として、自分の社会的機能をもっと高めて社会全体の主体思想化にさらに寄与することができるようにしなければならない (언어를 주체성있게 발전시키고 인민들의 언어생활을 혁명적으로 개선하여야 언어로 하여금 혁명과 건설의 무기, 자주성을 실현하기 위한 투쟁의 무기로서의 자기의 사회적기능을 더욱 높히여 온 사회의 주체사상화에 더 잘 이바지할수 있게 한다.)」のように⁴⁾、社会体制づくりに言語を利用するため積極的に言語規定の改正に乗

り出したのである。つまり、言語は革命と建設の頼れる武器との言語観に基づいて、政策的に言語の改造を押し進め、その改正は数多くに及ぶ。その中でも、1966年、「朝鮮語規範集」や「文化語制定」は、朝鮮語と韓国語をかなり異なる軌道へ突入させる改正となった⁽⁵⁾。朝鮮語は、この改正を契機に韓国語の言語規範や標準語から切り離されたのである。この文化語とは、地域的には平壤を中心とする平壤（平安道）の言葉、咸鏡道の方言もたくさん盛り込んでいる言葉である。

一方韓国は、1933年、「ハングル正書法統一案」以来の基本枠組みを維持しつつ、意図的な言語の改正は行ってこなかった。このことから韓国語は人為的に手を加えない基本姿勢で一貫してきており、朝鮮語のようにある目的の達成のために意図的に改正を行ったのとは異なると言えよう。

しかし、国際関係の緊密さが増すことによって外来語が社会生活の中で増加し、なお発達した産業社会に韓国語が対応できないことも生じ、1986年の「外来語表記法」が施行されるようになった。例えば、1980年代に入って東欧諸国との外交関係が樹立され、その表記の必要性に迫られたのである⁽⁶⁾。このように時代の変化に応えるべく、1933年以来、半世紀ぶりに改正を行い、1989年の「ハングル正書法」を施行するに至った。ところがこの改正は、1933年以来、ほとんど改正がなかったことから考えると、「ハングル正書法統一案」の大幅な補充であった。また「標準語規定」も、1936年の「査定した朝鮮語標準語集」以来、新たな査定基準となる規定まで提示しており、同じことが言えよう。

このように韓国語と朝鮮語が大きく異なる道を歩むようになったのは、1966年における朝鮮民主主義人民共和国の言語規範改正と、1989年の韓国における規定改正による。

(2) 韓国語と朝鮮語の相違点

韓国と朝鮮民主主義人民共和国の一連の言語規定の改正によって韓国語と朝鮮語はいかなる差を露呈するようになったのか、主に今の相互の相違点を具体的に取り上げることとする。とりわけ「朝鮮語」を学習する上で大きな影響を与えるような相違点を中心に掲げることとする。

a. 音韻

①文化語は平壤を中心とする音声的特徴によるものと思われるが、「ㅈ、一」を朝鮮語では「ㅉ」に近く発音する傾向が強い。例えば、「걱정（心配）」を「곡중 [곡쑹]」に発音することである。日本において「朝鮮語」の発音をカタカナで表記するようなこと、つまり「어머니（お母さん）」を「オモニ」と記して発音することと似ている。

②文化語では「ㄹ」母音逆行同化⁽⁷⁾や「前舌母音化」⁽⁸⁾を認めている。例えば、「지팡이（杖）」を「지팡이」に、「부수다（壊す）」を「부시다」に記す。

③「ㅚ [we]」について韓国語では二重母音、一方朝鮮語では1954年の改定から単母音

で発音する。

④韓国語では平音の単語を、朝鮮語では硬音 (= 된소리 [ドエンソリ]) (日本では濃音とする) で表記するケースが多い。例えば、韓国語では平音の「원수 (仇)」や「속도 (速度)」であるが、朝鮮語ではそれぞれ「원수」や「속도」と表記する具合である。

⑤韓国語では単語の初声に「ㄴ, ㄹ」を使わない「頭音法則」を適用しているが、朝鮮語では、1954年から改正を行ってこの原則を適用しない。例えば、韓国語では「여자 (女子)」、 「노동 (労働)」としているが、朝鮮語ではそれぞれ「녀자」、「로동」と記す。

⑥朝鮮語の文化語は平壤 (平安道) を中心とする語彙と発音を基準にしている。次の「我々の言葉を発展させるためには、土台を固めないといけません。革命の首都であり、揺籃地の平壤を中心とし、平壤の言葉を基準にして言語の民族的特性を保存して発展させていけるようにしなければなりません。ところで、標準語と言えば、ソウルの言葉を標準にすることと間違っ理解することがあるので、そのまま使う必要はありません (우리말을 발전시키기 위해서는 터를 잘 닦아야 합니다. 혁명의 수도이며 요람지인 평양을 중심으로하고 평양말을 기준으로 하여 언어의 민족적 특성을 보존하고 발전시켜 나가도록 하여야 하겠습니다. 그런데 표준어라고 하면 서울말을 표준하는 것으로 그릇되게 리해할수 있으므로 그대로 쓸 필요가 없습니다.)」のように⁽⁹⁾、朝鮮語の文化語は韓国語の標準語と違う軌道に乗せていくことを明言している。また、その発音の総則には、平壤の言葉を土台とする発音を基準とすると明記している。その特徴はリズムの単位が短く、一つの文章を多くの節に分けて発音する傾向にある。なお、同じく長短音に基づいて運用される韓国語や朝鮮語であっても、このリズムによって両者にはかなりの差が感じられる。また、朝鮮語の上がり下がりのイントネーションが激しいのは、韓国の標準語⁽¹⁰⁾と異なる。朝鮮民主主義人民共和国は、この文化語のイントネーションを利用して戦闘的、かつ扇動的効果を得ようとしており、自らたくましく、躍動的と主張している⁽¹¹⁾。

b. 語彙

韓国語と朝鮮語の間で相違点が一番多く見られるのは、語彙である。朝鮮民主主義人民共和国は語彙の整理こそが民族の発展につながるという目標のもと、意図的に(表1)における一連の言語政策を推進していく過程で、韓国語とは異なる用語をつかい、なお違う語彙を量産したのである。

まず、語彙の中でも外国語を学習する上で重要な「子音の呼称」や「文法用語」にはいかなる差があるのか考察しよう。

(表2) 子音の呼称

韓国語	子音	朝鮮語
기역	ㄱ	기억
니은	ㄴ	니은
디귄	ㄷ	디은
리을	ㄹ	리을
미음	ㅁ	미음
비읍	ㅂ	비읍
시옷	ㅅ	시읏
이응	ㅇ	이응
지읏	ㅈ	지읏
치읓	ㅊ	치읓
키읔	ㅋ	키읔
티을	ㅌ	티을
피읖	ㅍ	피읖
히읇	ㅎ	히읇
쌍기역	ㄱㅅ	된기억
쌍디귄	ㄷㄷ	된디은
쌍비읍	ㅂㅂ	된비읍
쌍시옷	ㅅㅅ	된시읏
쌍지읏	ㅈㅈ	된지읏

(表3) 文法用語

韓国語 (日本語訳)	朝鮮語
격음 (激音)	거센소리
두 음절 (二つの音節)	두 소리
설측음화 (舌側音化)	혀옆소리
쌍받침 (二つが重なるバッチム)	들받침
어간 (語幹)	말줄기
어근 (語根)	말뿌리
어미 (語尾)	끝소리마디
접두사 (接頭詞)	앞붙이
접미사 (接尾詞)	뒤붙이
합성어 (合成語)	합친말
합성어간 (合成語幹)	합친말줄기
형태소 (形態素)	형태부

このように韓国語と朝鮮語とでは子音の呼称や文法用語において差が確認できる。この他、スポーツ用語について⁽¹²⁾、とりわけ幾つかの野球用語を取り上げよう。

(表4) 野球に関する用語

韓国 (発音記号)	英語	朝鮮民主主義人民共和国 (日本語訳)
글러브 [glʌv]	glove	가죽장갑 (革手袋)
배트 [bæt]	bat	야구봉 (野球棒)
라이너 [lainər]	liner	긴직선공치기 (直線にボールを打つこと)
아웃 [aut]	out	실격 (失格)
번트 [bʌnt]	bunt	살짝치기 (軽く打つこと)
홈베이스 [houmbeis]	home base	본진 (本陣)
캐처 [kætʃər]	catcher	본자리지기 (本陣を守る人)
런너 [rʌnər]	runner	진격수 (進撃手)
베이스 [beis]	base	진 (陣)

以上、韓国語では、野球中継の際、主に英語の発音通りの用語を使っている。それに加えて、漢字語に置き換えて「라이너」を「직선타구 (直線打球)」、「캐처」を「포수 (捕手)」、「런너」を「주자 (走者)」、「베이스」を「루 (塁)」と言う場合もある。

一方、朝鮮語における野球用語は、外来語をむりやりに固有語に置き換えた結果によるものである。ところが、朝鮮語ではスポーツ用語の外来語だけではなく、一般の単語でもこのような傾向はよく見られる。例えば、「カーテン (curtain)」は韓国語では英語の発音通り「커튼 [kə:rtən]」とするが、朝鮮語では「주름막」、つまり固有語で「しわの幕」とする。同じく「ロータリー (rotary)」も韓国語では英語の発音通り「로터리 [rotəri]」であるが、朝鮮語では固有語で意味を示して「도는 네거리」、すなわち「廻る十字路」と表記する。

特に、韓国語では米国を中心とする西洋の影響をうけて英語の語彙が多数流入している反面、朝鮮語には旧ソ連の影響でロシア語が入ってきている。次の単語について韓国語は英語の発音通り呼んでいるが、朝鮮語ではロシア語に近い発音をする。例えば、「グループ (group)」、「トラクター (tractor)」は韓国語では「그룹 [gru:p]」、「터렉터 [træktər]」、朝鮮語では「구루빠 [guruppa]」、「뜨락또르 [ddərakddorə]」である。

ところが、同じ単語であっても、韓国語と朝鮮語とでは意味の異なるケースが多い。例えば、「어머이」は韓国語では「両親」の意味であるが、朝鮮語では「金日成」を指す言葉に変わり、また「궁전」は韓国語では「宮殿」、一方朝鮮語では「子供や労働者のために様々な体育・文化施設を備え、政治・文化・教養事業を行う大きくて立派な建物」の意味で使われている⁽¹³⁾。さらに、固有語の「동무」は韓国語では「友達」であるが、朝鮮語では「革命のためにともに戦う同士」を意味する。これをうけて韓国社会では、いつの間にか「동무」という単語を使わず、「친구 (親旧=友達)」を使っている。

そして朝鮮語では社会主義に関連する新造語が数多く誕生し、韓国語には見慣れない単語である。例えば、「인민 배우 (人民俳優)」、「로동 교양소 (労働教養所)」、「밥 공장 (飯工場)」、「속도전 (速度戦)」など朝鮮語の中では数多くの新造語が登場している。それぞれのその意味は、「一番高いレベルの俳優」、「労働を通して人民を教育する機関」、「主婦が食券で飯を購入する所」、「あらゆる事業を最短期間で、かつ最上の成果を収めるための推進方式」である。

特に、外来語以外も固有語で表記することによって、韓国語圏の人々にはまったく理解できない単語が数多く誕生している。例えば、「우등불」は「暖を共にとるために薪などを積み上げて燃やす火」、「토스레」は「繊維を再生して編んだ品質の良くない生地」、「흔들레판」は「ぬかるんで足を踏み入ると抜け出しにくい干潟」の意味である。

また、朝鮮民主主義人民共和国だけでつかう社会などを皮肉る隠語が数多く取り上げられる。例えば、「메뚜기」は、そもそも「バッタ」の意味であるが、「党に忠誠心を見せつけるために住民を苛める党员」、また「폭탄 밥」は直訳すれば「爆弾の飯」であるが、「爆

弾が落ちてくぼみができているようなご飯の盛り方」の意味としてもつかう⁽¹⁴⁾。

一方、朝鮮語の文化語は平安道地方を中心とする言葉なので、韓国語の標準語からすれば、その地方の方言が朝鮮語の主役として受け入れられていることになる。したがって、文化語の語彙の中では韓国語圏の人々にはほとんど理解できない単語が使われている。例えば、「망돌」、「게사니」、「인차」は、それぞれ韓国語の「멧돌（石臼）」、「거위（ガチョウ）」、「곧（すぐ）」に当たる。そして擬声語や擬態語にも見慣れない単語が多く見られる。例えば、アンダーラインの朝鮮語の「왈랑질랑 방울소리」、「우즐우즐 춤을춘다」は、韓国語の「딸랑딸랑 방울소리（ちりんちりん鈴の音）」、「덩실덩실 춤을춘다（ひょいひょいと踊る）」に当たる。

c. 文法

①造語法の場合、朝鮮語は接辞の機能を拡大したり、補助用言として使うのを用言派生のために使ったりして新しい単語を多くつくり出している。例えば、「～나다」、「～나서다」、「～맞다」、「～지다」、「～우～」、「～히～」を使って、「좋아나다」、「도와나서다」、「급해맞다」、「차례지다」、「자래우다」、「생각히다」、韓国語では「좋아하다（好きだ）」、「돕기위해 나서다（手伝うために乗り出す）」、「매우 급하다（非常に急だ）」、「차례로 뉘이 되다（順番で取り分になる）」、「기르다（育てる）」、「생각하게 하다（思わせる）」になるが、韓国語では見かけられない造語である。

②朝鮮語の語句であるが、以下は韓国語では使わない。例えば、朝鮮語の「～(으) ㄴ데 대하여」、「～(으) ㄴ 대신에」、「～자 바람에」は、韓国語ではそれぞれ「～ㄴ데 대하여（～に対して）」、「～지 않고（～しないで）」、「～자마자（～やいなや）」で表記する。

③朝鮮語では複数の概念が広範囲に渡って使われており、以下で示すアンダーラインの複数接尾詞の場合、一般的に韓国語では使わない。例えば、「거대한 성과들을 이룩했고～」、「교과서들에 미제의 사상이～」であるが、日本語で直訳すれば、それぞれ「巨大な成果等を成し遂げて～」、「教科書等に米帝の思想が～」になる。

d. 文体

朝鮮民主主義人民共和国は朝鮮語の文体を革命と社会主義の建設に重要な道具として見なしており、言葉や文章を通して戦闘的な雰囲気を作成し、訴えかける効果を高めることを狙っている。このような方針に基づいて、短い文章・命令形・扇動形の文体、そして罵詈雑言や激しいかつ直接的表現を躊躇なく使う⁽¹⁵⁾。一方、これとは対照的に金日成・金正日に対しては過剰な尊敬語を使っている。以下の朝鮮語文章を取り上げよう。

①「놈들이 비행기와 대포로 지달을 부릴때 우리 인민장병들은 승냥이 놈들의 대갈통을 모조리 박살내야 한다. (奴らが飛行機や大砲で分別のない行動をとる時、我らの人民兵士らはヤマイヌのような奴らの頭を悉くうち破らなければならない。)」

② 「경애하시고 위대하신 장군님께서는 전선부대를 시찰하시고 인민장병에게 격려의 말씀을 하시었습니다. (敬愛する偉大なる将軍様は前線部隊を視察されて人民兵士に激励のお言葉をおっしゃられました。)」⁽¹⁶⁾

例文①における「놈들이」、「지랄을 부릴때」、「승냥이 놈들의 대갈통」、「박살내야 한다」のような過激な表現や②の過剰な尊敬語は、韓国語では一般的に使われない⁽¹⁷⁾。

①②における括弧の日本語は、できるだけ朝鮮語のニュアンスをリアルに現すため、直訳に等しい訳を行った。しかし、アンダーラインの罵詈雑言や直説的な表現、そして尊敬語を朝鮮語ニュアンスのまま日本語で伝えるのは難しい。

e. 「正書法 (맞춤법)」

①韓国語では「~어」、「~었」が「ㄹ」母音順行同化現象であっても「~어」、「~었」で表記する反面、朝鮮語では語幹の終声があるのみの場合、「~어」、「~었」であるほかは「~여」、「~였」で表記する。例えば、韓国語では「떼어 (取り除いて)」、「실현되었는가 (実現できたのか)」であって、朝鮮語では「떼여」、「실현되었는가」で現す。

②韓国語では母音で終わる単語にほかの単語をつけて合成語をつくる場合、前の単語に「ㅏ」をつける。なお、合成語ではない以下の六つの漢字語に限っても「ㅏ」をつける。つまり、「間のシオツ (사이시옷)」を加えて表記することになっており、「곳간 (庫間)」、「셋방 (貰房)」、「숫자 (数字)」、「차간 (車間)」、「퇴간 (退間)」、「횟수 (回数)」と表記する。

しかし、朝鮮語の規定では「間のシオツ」を使わないことにしている。例えば、韓国語では「바닷가 (海辺)」、「핏줄 (血統)」、「햇길 (船路)」であるが、朝鮮語では「바다가」、「피줄」、「배길」と表記する。一方、上記の六つの漢字語を朝鮮語では、それぞれ「고간」、「세방」、「수자」、「차간」、「퇴간」、「횟수」と表記する。

③韓国語では「ㄹ」不規則用言 (日本では、「ㄹ」変則」という)) に当たる単語の終声 (バッチム) の「ㄹ」が「ㅏ」に変わるときは、変わった形で書く。しかしこの場合、朝鮮語では「ㅏ」で書く。例えば、韓国語では「가까워 (近くて)」、「외로워 (寂しくて)」、「아름다워 (美しくて)」、反面、朝鮮語では「가까와」、「외로와」、「아름다와」と表記する。

④韓国語では副詞に「~이」をつける場合、その副詞の原形 (語幹) を書く。しかし、朝鮮語では語幹を書かない。例えば、韓国語では「더욱이 (さらに)」、「일찍이 (早めに)」であるが、朝鮮語では「더우기」、「일찌기」と表記する。

⑤韓国語では「ㅈ」が「ㅊ」に発音されても、「ㅈ」と書く。しかし、朝鮮語では「ㅈ」の「계」、「례」、「혜」、「예」のみを、韓国語のように表記して、その他は「ㅈ」と書く。例えば、韓国語では「떼별 (袂別=別離)」、「폐기 (廃棄)」であるが、朝鮮語では「매별」、「폐기」と表記する。

⑥推量の疑問語尾において韓国語では濃音で表記するが、朝鮮語では平音で記す。例えば、韓国語では「먹을까 (食べるか)」、「기뻐하실까 (喜ばれるか)」で、朝鮮語では「먹을가」、「기뻐하실가」である。

⑦韓国語と朝鮮語には「分かち書 (띄어쓰기)」の相違も存在しているが、上記ほどの差ではなく、意味を読みとるにはそれほど差し支えがないものと思って、本稿では省くことにする⁽¹⁸⁾。

f. 辞書の引き方

韓国語と朝鮮語における「辞書の引き方」について比較をする。

(表5) 辞書の引き方 (子音)

韓国語	引き順	朝鮮語
ㄱ	①	ㄱ
ㄲ	②	ㄴ
ㄴ	③	ㄷ
ㄷ	④	ㄹ
ㄷ	⑤	ㄴ
ㄹ	⑥	ㄷ
ㄴ	⑦	ㄷ
ㄷ	⑧	ㄷ
ㅁ	⑨	ㅁ
ㄴ	⑩	ㄷ
ㄷ	⑪	ㅁ
ㅇ	⑫	ㅁ
ㅁ	⑬	ㅁ
ㅁ	⑭	ㅁ
ㅁ	⑮	ㅁ
ㅁ	⑯	ㅁ
ㅁ	⑰	ㅁ
ㅁ	⑱	ㅁ
ㅁ	⑲	ㅁ

(表6) 辞書の引き方 (母音)

韓国語	引き順	朝鮮語
ㅏ	①	ㅏ
ㅑ	②	ㅑ
ㅓ	③	ㅓ
ㅕ	④	ㅕ
ㅗ	⑤	ㅗ
ㅛ	⑥	ㅛ
ㅜ	⑦	ㅜ
ㅠ	⑧	ㅠ
ㅡ	⑨	ㅡ
ㅚ	⑩	ㅚ
ㅜ	⑪	ㅜ
ㅠ	⑫	ㅠ
ㅡ	⑬	ㅡ
ㅚ	⑭	ㅚ
ㅜ	⑮	ㅜ
ㅠ	⑯	ㅠ
ㅡ	⑰	ㅡ
ㅚ	⑱	ㅚ
ㅜ	⑲	ㅜ
ㅠ	⑳	ㅠ
ㅡ	㉑	ㅡ

このように韓国語と朝鮮語とでは、「朝鮮語」学習にもっとも重要な「辞書の引き方」・「子音の呼称」、さらに「音韻」・「語彙」・「文法」・「正書法」からしても異なるのは深刻な問題である⁽¹⁹⁾。ちなみに、半世紀以上の交流のない分断も韓国語と朝鮮語の異質性を深め、異なる社会体制も相違の拡大にさらなる拍車をかけたと言わざるを得ない。

第2章 日本における「朝鮮語」学習の書物

前章で取り上げた韓国語と朝鮮語の相違点に対して、日本で出版された大学の「朝鮮語」学習用テキストとして使われている書物は、どのように紹介しているのでしょうか。また、「朝鮮語」学習に必要な辞書は、いかなる構成になっているのかを中心に考察していくことにする。

(1) 学習用テキスト

1988年ソウルオリンピックを契機に、日本では韓国に対する関心が高まったと言えよう。その後、グローバル化時代の流れや世界における地域統合にも影響されて、日韓では国境を越えて互いの往来がかつてないほど頻繁になっている。このムードを反映しているかのように、日本では「朝鮮語」学習用のテキストが数多く出版され、その種類は豊富である。

以下では日本国内で市販されて、主に大学の「朝鮮語」学習用のテキストとして使われている書物の内容を調べて、朝鮮語をいかに紹介しているのか、(表7)にまとめてみた。

(表7) 「朝鮮語」学習用テキストに紹介している朝鮮語の内容

テキスト (出版社)	子音の 呼び方	辞書の 引き方	頭音 法則	その他
『新しい朝鮮語』(白帝社)				
『アルギシウン韓国語』(白帝社)				
『ウリマル』(白帝社)				
『書いて覚える初級朝鮮語』(白水社)	○	○	○	
『韓国語 (初級)』(白帝社)				
『韓国語 (中級)』(白帝社)				
『韓国語入門』(ひつじ書房)				
『韓国語入門2』(ひつじ書房)				
『韓国語会話入門』(東方書店)				
『韓国語講座』(国書刊行会)				
『韓国語レッスン (初級Ⅱ)』(スリーエーネットワーク)				

『聴いて覚える朝鮮語』(白水社)			
『基礎朝鮮語(文法と作文)』(白帝社)			
『基礎朝鮮語(会話編)』(白帝社)			
『言葉の掛け橋』(白帝社)	○	○	
『コミュニケーション韓国語Ⅰ』(第三書房)			
『コミュニケーション韓国語(会話編1)』(白帝社)			韓国語と朝鮮語の名称の 多様性を紹介
『コミュニケーション韓国語(文章編1)』(白帝社)			
『これならわかる!朝鮮語』(白水社)			分かち書き・~여・ 幾つかの語彙
『至福の朝鮮語(改訂新版)』(朝日出版社)			
『スタンダードハングル講座①』(大修館書店)			○ 分かち書き・~여・ ~을가(推量の疑問語尾)
『スタンダードハングル講座②』(大修館書店)			
『総合韓国語1』(白帝社)			
『総合韓国語2』(白帝社)			
『朝鮮語講座』(白帝社)			○
『朝鮮語を学ぶ』(白帝社)			
『使える朝鮮語』(白水社)			
『入門者のための朝鮮語講座』(白帝社)			
『はじめての韓国語』(白水社)			
『はじめてのハングルレッスン』(講談社)			
『ハングル基礎会話』(白帝社)			
『ハングル基本会話』(白帝社)			
『ハングル教本』(新幹社)			
『ハングルを学ぶ』(白帝社)			
『ハングルを学ぼう』(白帝社)			○
『ハングル初級』(白水社)			
『ハングル初級』(大修館書店)			
『ハンダルの基礎』(大修館書店)			
『標準韓国語教本』(白帝社)			
『わかりやすい朝鮮語の基礎』(東洋書店)			
『よくわかる韓国語①』(白帝社)			
『よくわかる韓国語②』(白帝社)			

(50音順に基づく整理)

管見の限り、日本の大学でよく使われている上記の「朝鮮語」学習用テキストのすべては、韓国語がベースになっており、それにそった内容で構成している。なお、第1章での相違点を網羅しているテキストはまずない。(表7)のように、一部のテキストのみが朝鮮語の特徴を断片的に紹介しているだけである。

とりわけ「朝鮮語」学習において重要である「辞書の引き方」や「子音の呼称」の差を取り上げているテキストは『書いて覚える初級朝鮮語』と『言葉の掛け橋』のみである。それらもごく一部の「子音の呼び方」「辞書の引き方」「頭音法則」の紹介に留まっている。また、次の『コミュニケーション韓国語(会話編1)』、『これならわかる!朝鮮語』、『スタンダードハングル講座①』、『朝鮮語講座』では、より簡単な内容を、それもテキストの片隅に記しているだけである。ところが、『ハングルを学ぼう』は「辞書の引き方」のみではあるが、韓国語と朝鮮語を対比して紹介している。

しかし、いずれのテキストも韓国語と朝鮮語が同格に扱われておらず、韓国語中心である。他の「朝鮮語」学習用テキストは韓国語と朝鮮語の差をまったく紹介していない。少なくとも第1章で言及した内容に触れてこそ「朝鮮語」テキストと言えよう。また、一般人向けの「朝鮮語」テキストも同じくすべて韓国語の内容を紹介している⁽²⁰⁾。

要するに、日本で出回っている「朝鮮語」テキストは、主に韓国語を盛り込んでおり、「朝鮮語」ではなく、韓国語と言って差し支えのない内容である。さらに最近、韓国から直接輸入して「朝鮮語」テキストとして活用する書物も多い⁽²¹⁾。まさに、日本では韓国語の学習が支配的であると言える。

(2) 辞書

では、日本で市販している「朝鮮語」の学習に必要な辞書の内容はどうなっているのか。『韓日辞書』における「辞書の引き方」や「子音の呼称」を中心に、編集の側面から考察する。

日本における市販の『韓日辞書』は、以下のように大きく五つの編集に分けて考えることができよう。

①日本で独自に編集を行って出版した辞書である。例えば、『コスモス朝和辞典』(白水社)や『現代朝鮮語辞典』(養徳社)が取り上げられる。

②日韓の研究者や出版社が共同で研究を積み重ね、編集したケースである。例えば、日本国内でよくつかわれている『朝鮮語辞典』(小学館)がそれである。この辞書は日本の小学館と韓国の金星出版社が共同で編集を行ったものである。

③韓国が編集したものを日本が再編集した辞書である。例えば、韓国の民衆書林が編集して出版した『新訂韓日辞典』をもとに、日本の三修社が再編集して『ポータブル韓日辞典』として発行している。

④韓国で編集した辞書を日本で発行するケースである。例えば、『役に立つ韓日辞典』の

場合、編集は韓国の民衆書林が行って、発行は日本の三修社が行っている。

⑤直輸入に近い形であるが、韓国で編集や発行をしているものを日本の出版社が販売しているケースである。例えば、『分類韓日辞典』や『日韓・韓日小辞典』があげられるが、韓国の翰林出版社が発行した辞書であるが、白帝社が販売をしている。

このいずれのケースも韓国語に準じた内容の編集であり、とりわけ④⑤のケースは韓国の編集なので、韓国から辞書を直接輸入していることに等しい。最近では、韓国から辞書の直輸入や④⑤のケースが増える傾向である。

すでに韓国語と朝鮮語とでは、(表5)・(表6)で「辞書の引き方」が異なっていることを指摘してきたが、日本では両言語の「辞書の引き方」を満たしている辞書は見あたらない。つまり、韓国語に準じた「辞書の引き方」や「子音の名称」である。

このように日本国内の「朝鮮語」学習者はほとんどが韓国語中心のテキストや辞書をつかって、韓国語を学んでいると言っても過言ではない。韓国語のみの書物が「朝鮮語」といわれ、「朝鮮語」が韓国語と見なされて誤解を与える可能性さえある。

第3章 日本・韓国・朝鮮民主主義人民共和国における言語の名称

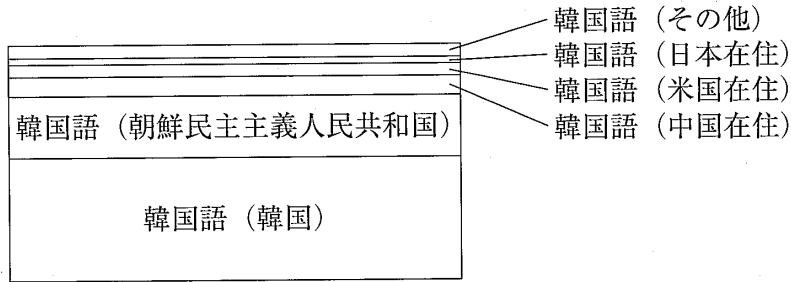
本章では、日・韓・朝におけるそれぞれの言語名称をめぐる思惑、さらには国名や地名にまで範囲を広げて、その名称の意図を考察する。

(1) 韓国語・朝鮮語をめぐる韓・朝

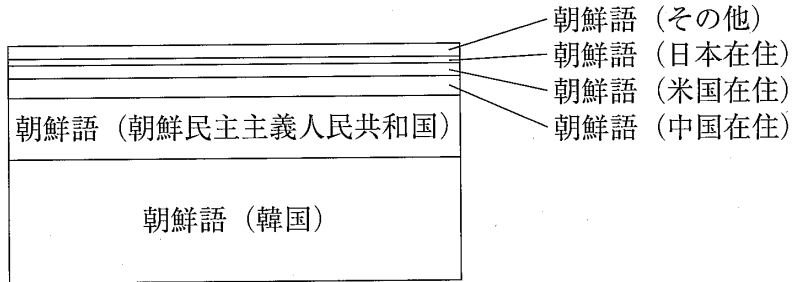
「朝鮮語」は、韓国では韓国語、朝鮮民主主義人民共和国では朝鮮語とそれぞれ呼ばれている。この呼称の二元化は、1945年からの事実上の分断が発端であるが、それぞれの呼称には相互の思惑が潜んでいる。例えば、韓国が朝鮮語を「北韓の言葉 (북한말)」、逆に朝鮮民主主義人民共和国は韓国語を「南朝鮮の言葉 (남조선말)」という名称がその思惑を露呈する。つまり、韓国における「北韓の言葉」とは「南韓の言葉 (남한말)」が存在してはじめて成立する名称である。したがって、「北韓の言葉」の名称は韓国語が南と北に分かれているという意味なので、韓国語主導や本位の名称である。これに対する朝鮮民主主義人民共和国の「南朝鮮の言葉」も「南韓の言葉」と同じ理屈の名称である。韓国の韓国語とは朝鮮語まで包括する名称であり、また朝鮮民主主義人民共和国の朝鮮語は韓国語を含む名称である。これは言語の名称をめぐる自国の正統性を主張する思惑であり、主導権の対立とも思われる。

この相互の思惑を図で示せば、以下のようなになる。

(図1) 韓国語名称の意味合い



(図2) 朝鮮語名称の意味合い



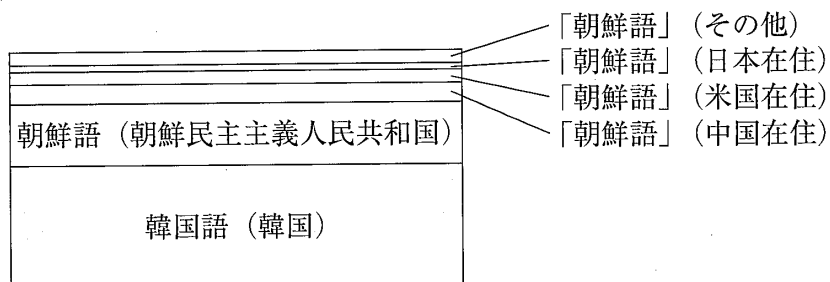
言語の名称に限らず、韓国では、朝鮮民主主義人民共和国を「北韓」（韓国の北の地域）とし、自らを「南韓」（韓国の南の地域）としている。この「南韓」や「北韓」の名称は「韓国」が存在してはじめて成立する。一方、朝鮮民主主義人民共和国も韓国を「南朝鮮」（朝鮮の南の地域）としており、これもまた「朝鮮」、つまり朝鮮民主主義人民共和国があつて意味をもつ名称である。この他、「コリア半島（Korea Peninsula）」の名称においても、韓国では「韓半島」といい、朝鮮民主主義人民共和国では「朝鮮半島」とする。

このような韓国と朝鮮民主主義人民共和国との名称の対立は言語に留まらず、様々なところまで及んでいる。

(2) 日本における韓国語と朝鮮語

言語の名称をめぐって、韓国と朝鮮民主主義人民共和国とは異なって、日本では韓国語と朝鮮語を包括する意味で、一般的に「朝鮮語」をつかっている。以下、日本のいう「朝鮮語」を図で示そう。

(図3) 「朝鮮語」名称の意味合い



しかし、すでに触れてきたように「朝鮮語」が朝鮮語と同じ発音なので、日本の思惑通りには理解されず、自らの都合にいい解釈をしている。例えば、韓国では「朝鮮語」は朝鮮語と不満を漏らしている反面、朝鮮民主主義人民共和国では「朝鮮語」=朝鮮語と、勝手に見なそうとしている。ある意味で、この問題はイデオロギー対立、または主導権争いに見受けられる。この名称をめぐる対立や相互の思惑を回避するために、日本ではNHK講座を開設する際、ハングル語にした経緯がある⁽²²⁾。しかし、第1章で言及したように、韓国語と朝鮮語はかなり異なる規定のもとで言語を運用されているので、新たな名称を見いだすことが求められよう。

このように「朝鮮語」名称をめぐる誤解、言葉そのものの異質化が学習教材における「朝鮮語」以外のハングル語、コリア語、ウリマル（我々の言葉）、「韓国語・朝鮮語」、韓国語などの富んだ名称を生ませたと思う。ところが、日本では言語の名称だけではなく、韓国や朝鮮民主主義人民共和国をめぐる他の名称においても、その名称がバラバラで定まっていな。この現状を踏まえて、韓国や朝鮮民主主義人民共和国における諸名称まで加えて、以下の（表8）にまとめた。

（表8）日・韓・朝における諸名称

		言語	人種	半島名	国名
日本	韓国	「朝鮮語」、韓国語、 ハングル語、コリア語、	韓国人 コリアン	朝鮮半島	大韓民国、 韓国
	朝鮮	「韓国・朝鮮語」、 ウリマル、朝鮮語	朝鮮人		朝鮮民主主義人民共和 国、共和国、北朝鮮
韓国	自国	韓国語、韓国の言葉、 ウリマル	韓国人、韓国の 人、南韓の人	韓半島	大韓民国、韓国、 南韓
	朝鮮	北韓の言葉	北韓の人		北韓
朝鮮民主主義 人民共和国	韓国	南朝鮮の言葉	南朝鮮の人	朝鮮半島	南朝鮮
	自国	朝鮮語、ウリマル、 朝鮮の言葉	朝鮮の人		朝鮮民主主義人民共 和国、朝鮮、共和国

* 朝鮮民主主義人民共和国を略して朝鮮とも記した。

* 「ウリマル=我々の言葉（우리말）」、「北韓の言葉（북한말）」、「南韓の言葉（남한말）」、「朝鮮の言葉（조선말）」、「韓国の言葉（한국말）」、「北韓の人（북한 사람）」、「南朝鮮の人（남조선 사람）」、「朝鮮の人（조선 사람）」、「南韓の人（남한 사람）」、「韓国の人（한국 사람）」である。

日本では、朝鮮民主主義人民共和国の別称として、広く北朝鮮と言われているが、この別称は、南朝鮮があって成立する国名である。この言い方の裏を返せば、韓国が南朝鮮であるという意味で読みとれる。したがって、北朝鮮とは韓国が南朝鮮ととれるので、正しくは北朝鮮ではなく、朝鮮民主主義人民共和国ないしは朝鮮と呼ぶべきであろう。本稿で、日本における一般的名称である北朝鮮ではなく、朝鮮民主主義人民共和国という名称で一貫しているのは、その理由のためである。

一方、日本における高校地理教科書の記載内容の変更を求める韓国の研究では、例えば朝鮮半島は韓半島、朝鮮民族は韓民族、1950年に勃発した朝鮮戦争は韓国戦争へと変更を求めている⁽²³⁾。

このように言語名称をめぐる韓国語や朝鮮語の思惑と比べて、両者を包括する日本の「朝鮮語」という名称のほうがバランスがとれているが、朝鮮語と発音が同じであるがために朝鮮語に見なされる可能性のある点が限界と言えよう。この限界や言語以外の富んだ諸名称を克服するためには名称の見直しが必要であろう。

ここで、日本における「朝鮮語」と朝鮮語の認識を調べるために、「朝鮮語」を第2外国語として受講していない日本のK大学の学生を対象にアンケート調査を実施した。すなわち、中国語・フランス語・ドイツ語を第2外国語として受講している新生、合わせて118名である。その内訳は、中国語41名、フランス語37名、ドイツ語40名である。「朝鮮語」を第2外国語として選択していない学生を対象にしたのは、なるべく「朝鮮語」と朝鮮語の予備知識のある学生を避けて、その認識を確かめるためであった。(Q1)に対する答えを整理したのが、次の(表9)である。

(Q1) 日本では「朝鮮語」という名称が広く一般的につかわれている傾向にあります。

この「朝鮮語」とはどんな言葉なのか知っていますか。○を一つ付けて下さい。

- ①大韓民国(韓国)でつかわれている言葉()
- ②朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)でつかわれている言葉()
- ③大韓民国や朝鮮民主主義人民共和国でつかわれている言葉()
- ④大韓民国でもなければ、朝鮮民主主義人民共和国でもない地域でつかわれる言葉()
- ⑤よく分からない。()

(表9) アンケート調査の統計

(Q1)	言語	回答者数	言語別の割合	項目別の総数	全体の割合
①	C	4人	9.76%	14人	11.86%
	F	5人	13.51%		
	G	5人	12.50%		
②	C	7人	17.07%	21人	17.80%
	F	6人	16.22%		
	G	8人	20.00%		
③	C	24人	58.54%	65人	55.08%
	F	20人	54.05%		
	G	21人	52.50%		
④	C	1人	2.44%	2人	1.69%
	F	0人	0%		
	G	1人	2.50%		
⑤	C	5人	12.20%	16人	13.56%
	F	6人	16.22%		
	G	5人	12.50%		

*C：中国語、F：フランス語、G：ドイツ語（アルファベット順）

以上、「朝鮮語」を受講していない日本の大学生の「朝鮮語」名称をめぐるアンケート調査の結果をみると、半数の学生は「朝鮮語」名称に関する正確な理解をしているものの、残りのほぼ半数の学生が明確な知識をもっていないことがわかる。つまり、55.08%の学生は「朝鮮語」に関する正しい認識をもっているが、44.92%の学生が③以外の答えをしているのである。

その不正確な認識の中では、第2章でみてきた「朝鮮語」学習用テキストのほとんどが韓国語の内容で構成されていることを言い当てた結果ではあるが、①と答えた朝鮮語＝韓国語と理解する学生も11.86%いる。さらに「朝鮮語」は何か、よく分からない学生も13.56%いる。ことに「朝鮮語」＝朝鮮語と見なして、「朝鮮語」と朝鮮語の誤解をしている学生が17.80%もいる。正確な認識をもっていない約半数の学生には、明確な名称の提示の必要性を強く感じさせる結果である。

ところで、中国語・フランス語・ドイツ語の各言語別における目立った傾向はみられない。但し、同じアジアの言語である中国語を学習しているせいも、③と答えた中国語学習者が全体平均比率を若干上回る結果が得られた。

このように日本での「朝鮮語」という名称は、的確ではない言葉のイメージを作り出し、それによる様々な混乱や誤解を生む恐れも否定できないことがアンケート調査で分かった。

結びにかえて——「朝鮮語」に代わる名称——

以上、韓国語と朝鮮語は相互の言語規範の改正に伴い、異質性を拡大してきていること、日本の大学における「朝鮮語」学習用テキスト、そして韓日辞書はほとんど韓国語の内容で構成されていること、さらに日本の大学生へのアンケート調査の結果、半数に近い者が「朝鮮語」に関する正確な認識をもっていないこと、言語名称に関しては韓国と朝鮮民主主義人民共和国との対立も絡みあって日本では言語やその他の諸名称にまで多様化が進んでいることがわかった。

特に、言語名称をめぐる問題を克服しようとする模索が、「朝鮮語」以外のハングル語・コリア語・ウリマル（我々の言葉）・「韓国語・朝鮮語」と言った名称の多様化として現象している。この多様化の名称は、韓国と朝鮮民主主義人民共和国という既存の国家権力の主義・主張に荷担しないため、「朝鮮語」よりは一定の評価ができる。しかし、ここにも問題はある。例えば、ハングルとは「この世の中で一つしかない偉大な文字」という意味なので、文字名称を言語名称とするという無理がある。また、コリア語も英語の国名に「語」を合成したものに過ぎないし、ウリマルも我々の言葉という普通名詞なので、的確な名称とは言えない。「韓国語・朝鮮語」は、韓国語や朝鮮語を包括する意味を的確に表現しているが、名称が長い上、韓国語と朝鮮語の先後関係で、またも韓国と朝鮮民主主義人民共和国の争いに巻き込まれる可能性がある。

新たな言語名称の提案に際しては、韓国語と朝鮮語の相違点や実際日本で使われている「朝鮮語」学習用テキストや辞書がいかなる内容で構成されているのかを考慮しなければならないと思われる。第1章で明らかにしたように、韓国語と朝鮮語とでは、音韻・語彙・文法・文体・「正書法（맞춤법）」・イントネーションはもとより、とりわけ「朝鮮語」を学習する上で重要な「辞書の引き方」や「子音の呼称」などで、その相違が歴然としていた。さらに、第2章で明確にしたように、日本での「朝鮮語」学習用テキストや韓日辞書の内容が、主に韓国語になっている。

ごく最近、韓国の新聞報道には、「韓国と朝鮮民主主義人民共和国の言語はますます疎通が難しく、朝鮮民主主義人民共和国（中・高等学校）の教科書を（韓国語で）翻訳して読まなければならないところ（南北韓 言語 갈수록 疎通 어려워, 北 教科書 翻訳해 읽어야 할 판）」との記事を掲載している⁽²⁴⁾。韓国語と朝鮮語の異質性の拡大が、外国語のように翻訳をしなければならないほど深刻であることを指摘しているのである。このことは、第1章で確認した語彙から文法に到るまでの韓国語と朝鮮語の相違点を裏付けるものであろう。この記事にある教科書内容を、韓国語や日本語訳とも対照できるように（表10）として整理した。

(表10) 朝鮮民主主義人民共和国における中・高等学校教科書の内容

科目	学校及び回生	教科書内容／韓国語訳／日本語訳
国語	高等中1回生 (中学校)	朝:「일남이는 고기를 잡느라고 물참봉이 된 바지를 억이 막혀 내려다 보았다.」 韓:「일남이는 고기를 잡느라고 물에 흠뻑 젖은 바지를 기가 막히다는 표정으로 내려다 보았다.」 日:「イルナミは魚を捕まえるために水びっしょりにぬれたズボンを呆然とした表情で見下ろした。」
数学	高等中4回生 (高校)	朝:「제형에서 두 옆변의 가운데점을 맺은 선분을 제형의 중간선이라고 부른다.」 韓:「사다리꼴에서 두 측변의 이등분점을 잇는 선분을 사다리꼴의 중간선이라고 부른다.」 日:「梯形で二つの側辺の二等分点を結ぶ線分を梯形の中間線という。」
化学	高等中4回生 (高校)	朝:「공기에서 갈라낸 드문가스는 여러 곳에 쓰인다.」 韓:「공기 중에서 얻은 비활성 기체는 여러 곳에 쓰인다.」 日:「空気の中から得た非活性気体は様々なところに使われる。」

韓国語と朝鮮語が、このような状況であれば、「朝鮮語」学習者に「朝鮮語」ではなく、韓国語と朝鮮語を含む第3の名称か、あるいは明確な名称の提供が求められよう。主に日本における「朝鮮語」学習用テキストや韓日辞書の内容を踏まえて、「朝鮮語」学習者に単純明快な言語の名称を提示したほうがよいのではなかろうか。

以上の分析を踏まえるとき、言語名称としては「朝鮮語」よりは韓国語がよりの確であると判断される⁽²⁵⁾。日本での「朝鮮語」学習者に的確な言語名称を提供するという目的にそって、韓国語という名称の使用を提案すべきであるというのが本稿の結論である。すでに日本の文部科学省は、2001年から実施した大学入試センター試験の外国語科目を「朝鮮語」ではなく、韓国語としている。この韓国語という名称は言語の学習だけではなく、韓国や朝鮮民主主義人民共和国をめぐる研究の上でも生じうる様々な誤解や混乱を解消してくれるものと思われる。

注

- (1) 本稿の(表7)における「朝鮮語」学習用テキスト一覧や日本の各大学における言語名称からも「朝鮮語」以外の多様性が確認できる。
- (2) 『日本における韓国語教育実態の調査報告(日本에 있어서의 韓国語教育 実態調査報告)』(韓国教育財団、1996年、韓国)や『日本の大学等における韓国朝鮮語教育』(財団法人国際文化フォーラム、2003年)では、名称に関する実態調査は行っている。
- (3) 矢作勝美「[NHKに朝鮮語講座を]運動の八年」(『季刊三千里』38号、三千里社、1984年)81~83頁には、講座開設に当たって言語の名称をめぐる経過が記されている。
- (4) キムドンスウ(김동수)『朝鮮語の礼節法(조선말 레절법)』(科学・百科辞典出版社、1983年、朝鮮民主主義人民共和国)を、1989年、韓国の塔出版社が再刊行した。
- (5) 『朝鮮民主主義人民共和国の言語政策(北韓의 言語政策)』(国立国語研究院、1992年、韓国)、イスンウク(이승욱)「朝鮮民主主義人民共和国の国語研究と言語政策(北韓의 国語研究와 言語政策)」(『東亜研究』14号、西江大学校、1988年、韓国)
- (6) 「外来語表記法」の序文「外来語表記になるまで(外来語表記法이 되기까지)」に、その旨が記されている。
- (7) 「ㅏ、ㅑ、ㅓ、ㅕ」の母音が後ろにくる「ㅣ」の影響をうけてそれぞれ「ㅑ、ㅓ、ㅕ、ㅗ」に変わる現象である。
- (8) 後舌母音の「ㅑ、ㅓ」が前舌母音の「ㅣ」に変わる現象である。
- (9) 金日成の1966年5.14.教示。
- (10) 「標準語規定」によると、標準語は「教養のある人々が広く使う現代のソウル言葉に定めることを原則とする(教養있는 사람들이 두루 쓰는 現代 서울말로 정함을 原則으로 한다.)」と定義している。ソウルは、コリア半島の中部に当たり、その地域の言葉が標準語である。
- (11) イヒョンボック(이현복)「異質化した韓国と朝鮮民主主義人民共和国言語の音声学的比較研究(異質화된 南北韓 言語의 音声学的 比較研究)」(『省谷論叢』27-1号、1996年、韓国)
- (12) 詳しくは、キムヒジン(김희진)「韓国・朝鮮民主主義人民共和国における外来語の表記や使用実態(南北韓 外来語의 表記와 使用 実態)」(『韓国・朝鮮民主主義人民共和国の言語研究(南北韓 言語研究)』図書出版博而精、1998年、韓国)。そして、劉美貞「韓国と北朝鮮の言語(2) — スポーツ用語 —」(『ポリグロシア(Polyglossia)』5巻、立命館太平洋大学言語教育センター、2002年)を参照されたい。
- (13) キムビョンギユン(김명균)『韓国語同音語辞典』(太学社、2000年、韓国)に韓国語と朝鮮語の同音異義語を詳しく紹介している。
- (14) 南星祐・チョンジェヨン(정재영)『朝鮮民主主義人民共和国の言語生活(北韓의 言語生活)』(高麗院、1990年、韓国)
- (15) キムヨンジャ(김영자)「朝鮮民主主義人民共和国の文体(北韓의 文体)」(『韓国・朝鮮民主主義人民共和国の言語研究(南北韓 言語研究)』図書出版博而精、1998年、韓国)
- (16) 引用文①②は、朝鮮民主主義人民共和国中央放送のニュースで頻繁に放送される決まった表現である。
- (17) チャンウナ(장은하)「朝鮮民主主義人民共和国の言語礼節(北韓의 言語礼節)」(『金正日時代における朝鮮民主主義人民共和国の言語(金正日 時代의 北韓言語)』太学社、1997年、韓国)
- (18) 詳しくは、ウォンヨンソップ(원영섭)『正しい分かち書き・正書法(바른 띄어쓰기·맞춤법)』(セチャン(세창)出版社、2002年、韓国)やチョンミョンスック(정명숙)「朝鮮民主主義人民共和国の分かち書き規定と実際、そして展望(北韓의 띄어쓰기 規定과 實際, 그리고 展望)」(『金正

- 日時代における朝鮮民主主義人民共和国の言語（金正日 時代の 北韓言語）』太学社、1997年、韓国）を参照されたい。
- (19) 金敏洙「韓国語と朝鮮語の差（南北韓 言語의 差異）」（『新しい国語生活（새 国語生活）』5-2・3・4、6-1号、1985年、韓国）や高永根『朝鮮民主主義人民共和国の言葉と文字（北韓의 말과 글）』（乙酉文化社、1989年、韓国）を参照されたい。
 - (20) 『今すぐ話せる韓国語』（東進ブックス）、『韓国語の散歩』（アルク）、『韓国語会話』（新星出版社）、『CD エクスプレス朝鮮語』（白水社）、『ミサの韓国で会えたら』（NHK出版）など。
 - (21) 前掲『日本の大学等における韓国朝鮮語教育』13～14頁。
 - (22) 拙稿「韓国・朝鮮語検定試験について」（『Zephyr（ゼフィール・にしかぜ）』VOL.6 NO.2、甲南大学国際言語文化センター、1999年）でも、韓国と朝鮮民主主義人民共和国の対立に配慮して「韓国・朝鮮語」と記した。
 - (23) 邢基柱・孫竜沢『韓国から見た日本の高校地理教科書』（韓国教育開発院、2002年）9頁。
 - (24) 「朝鮮日報」A10（2003年9月16日、韓国）
 - (25) 最近「朝鮮語」学習用テキストの中でも韓国語の名称が多く目に付く。（表7）からも、その傾向が確認できる。